

令和2年葉山町議会第1回定例会報告

令和2年2月13日から3月18日までの会期で開かれ、令和元年度の補正予算や令和2年度予算などの審議が行われました。

● 学校給食センターの補正予算が7対6で可決されました

国は、学校給食法に基づき小中学校の給食を行うよう求めています。葉山町では、小学校4校の給食は実施していますが、中学校2校の給食は未実施です(牛乳のみのミルク給食を実施中)。町は、町内の全小中学校6校に給食を提供するために給食センターを整備することとし、2016年に上山口小学校、2018年に葉山中学校での整備を計画しましたが、地元や関係者の反対、議会による予算凍結などを受けて計画変更を余儀なくされてきました。

こうしたなか、昨年6月の議会定例会に、長柄小学校の脇奥での整備案が提案され、8対5の賛成多

数で可決されました。今定例会に提案されたのは、この流れを受けて提案された補正予算ですが、建設予定地が土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)に指定されていること、および、建設には県の許可が必要ですがその確証がないこと、さらにそのために必要な工事を民間事業者との覚書きを根拠に進めていること、という不確定要素が多いことから、私は反対しましたが、審議の結果7対6で可決されました。

この議決後に分かったことですが、国では頻発・激甚化する自然災害に対応するため、レッドゾーンでの開発を抑制する都市計画法等の改正法案を2月7日に閣議決定し、今国会に上程するとしています。県土木事務所に確認したところ、今回の改正部分は、市町村の事業には適用されないとの判断ですが、学校給食センターをレッドゾーンに建設しようという本町の計画は、この動きに逆行するものです。事業が進んでから、市町村に適用されるよう判断が変わって建設ができなくなると困ると考え、中村個人として所管の国土交通省に確認中です。

いずれにしても、新型コロナウイルス感染で町税の大幅減収、国・県支出金の減額が予想されます。来年度以降、学校給食センター建設の財源を確保することは限りなく困難になると考えます。🍷



🍷 この先に学校給食センターの建設予定地が

● 令和2年度予算には賛成しました

上記の学校給食センター関係予算が含まれていますので、本来なら予算案に反対すべきところですが、既に2回の議会審議において賛成多数で議決されている事業であり、私が反対しても総体としての予算案の可決は避けられないと判断し、賛成することとしました。

ただし、賛成討論のなかで私は、予算案に賛成するが、学校給食センター建設事業については多くの懸念すべき問題点があると認識しているとの私の考えを表明し、その上で、今後は町長とともに責任を負う立場に身を置いて、この事業がより適切に進め

られるよう関わっていく覚悟であることを述べました。

新年度予算では、もう一つ気懸かりな事業が計画されています。それは生ごみ堆肥化の実証実験で、モデル地区を定めて試験的に生ごみの分別収集を行うおうというものです。今後本格実施になった場合、町民に大きな負担と衛生上の問題が生じる恐れがあります。経費面も含めて、注視していかなければならない事業です。

ご意見を聞かせていただければ幸いです。🍷

Kazuo's Hyotan Column

～新型コロナウイルスが気づかせてくれた日常のもろさ・危うさ～

新型コロナウイルスの流行拡大が続いています。事態が長引いた場合、命ばかりでなく、私たちの生活や経済が受ける影響は深刻です。1929年に始まった世界恐慌を上回る経済危機になるかどうかは分からないが、リーマンショック以上の危機になるのは間違いないだろうという専門家もいます。グローバル化の中で、私たちの日常が如何に世界の動きと密接に関わりかつ依存しているか。そして、如何に脆いものであるか。

私たちの日常を脅かすものは、これだけではありません。

昨年6月、土木学会が「『国難』をもたらす巨大災害対策についての技術検討報告書」を発表しました。この「国難」をもたらす巨大災害とは、首都直下地震、南海トラフ地震、三大湾（東京湾・伊勢湾・大阪湾）の巨大高潮、三大湾の巨大洪水の4つなのですが、この発表に際して、土木学会の会長がNHKテレビのインタビューにこたえて、次のように言ったということです。「今のままで巨大災害が起きたら想像もつかないようなことになる。日本が東アジアにおける小国、最貧国のひとつになりかねないと考えている」と。

東日本大震災以降、地震、水害、豪雪、酷暑が毎年のように発生し、日本各地に大きな被害をもたらしています。地震も心配ですが、激甚化・頻発する台風被害も心配です。富士山の噴火も懸念されています。

日本の食料自給率37%も大きな不安要因です。世界的な天候不順などで食糧事情が悪化したとき、私たちは必要な食料を手にすることができるのでしょうか。

こう考えると、これまでの平穏な生活が奇跡のようにすら感じられます。安心安全な生活を守るために、子や孫の世代のために何をすべきか、何ができるか、途方に暮れる思いです。

4月7日、7都府県に緊急事態宣言が発せられ、16日には対象が全国に広げられました。“2020年世界大恐慌”が、世界史の教科書に載るようなことにならないことを祈るばかりです。



議員になって1年

皆様のご支援によって葉山町議になりこの5月で1年になります。

地方行政に34年間携わり、地方公共団体の仕事についてはそれなりに分かっているつもりでしたが、あらためて議員の立場から行政を眺めてみて、幅広い行政の様々な課題について細部までしっかり理解し判断することの困難さを思い知らされています。そのためか、いつも何かやるべきことをやっていないという不安な気分につながりつづけています。

議会に議案として提案されてから勉強するのでは、限界があります。議会を一回り経験したこれからは、町の課題は何か平素から先読みして勉強することが大事だと感じています。町民の皆さんとの接点を増やして、多くの声を聞かせていただきたいと思っています。

電話でも、メールでも、そして私の事務所でお茶を飲みながらでも、葉山のこと、私たちの生活のことなど語り合えればと思います。



今年もひょうたんの芽が出ました

中村かずお プロフィール

葉山町議会議員 1942年生まれ 横浜国大経卒
元 横浜市理事・横浜市福祉サービス協会専務理事 元 葉山町町内会連合会長・葉桜自治会長
現 社会福祉法人であいの会理事長・葉桜自治会会計担当

連絡先：〒240-0113 葉山町長柄1617-12 TEL/FAX 046-875-6925
Email：170202kn@ozzio.jp URL：https://www.nakamurakazuo.com/

